



新入社員が運転に慣れるまでは同乗し、安全運転のポイントを指導しましょう



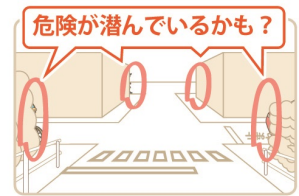
運転前には必ず「不安なことや難しいと思うことはないか」をたずね、新入社員の話をよく聞きましょう。また、新入社員が運転に慣れるまでは同乗し、次のような安全運転のポイントを指導しましょう。

POINT 1

安全確認すべき対象を教えましょう

信号のない交差点等で「人も車も来ないからそのまま進行しよう」と安易に判断すると、大きな事故につながる危険性があります。

新入社員に先にある危険を知ってもらうために、さまざまな交通場面で「あっ、危ない」と自らが経験した話を交えながら教えましょう。たとえば、信号のない交差点等で「人や自転車、車が交差する道路では急に飛び出してくる可能性がある」と、安全確認すべき対象を教えましょう。常に「危険が潜んでいるかもしれない」とその先の危険を予測して、運転するように指導しましょう。



POINT 2

声を出して安全確認を行わせましょう

声出し確認は、新入社員が安全確認すべき対象をはっきりと意識させる手助けとなります。安全確認すべき対象を理解していないまま、目で見ただけで確認していると「なんとなく確認した」という習慣がついてしまい、見落としが発生する危険性があります。

「対向車が来ない」「周囲に人がいない」ことを、目で見てしっかりと認識させるために、「対向車よし」「歩行者よし」と声を出して安全確認を行うように指導しましょう。



POINT 3

運転に集中できる環境をつくるように指導しましょう

1秒にも満たないわき見が事故につながります。カーナビや携帯電話は、車を安全な場所に停めてから操作するように指導しましょう。

また、運転の途中で携帯電話の通知音が鳴ると、運転から注意がそれてしまう危険性があります。携帯電話はドライブモード（公共モード）に設定し、カバン等に入れて、運転に集中できるような環境をつくるように指導しましょう。



POINT 4

時間に余裕をもった訪問スケジュールをたて、早めに出発するように指導しましょう

運転に不慣れなうえ、訪問する経路を把握していなかったり、時間の余裕がなかったりすると、必要以上に焦ってしまいます。そうすると、相手の動きを見過ごしたり、運転操作を誤ったりして事故を起こしやすくなります。

時間に余裕をもった訪問スケジュールをたて、早めに出発するように指導しましょう。



周囲から見られていることを意識させ、企業ドライバーとしての自覚をもたせましょう



まずは、自分の運転行動は周囲から見られていると意識させ、企業ドライバーとしての自覚をもたせましょう。事故に至らなくても、運転マナーが悪いと「あの企業は運転が乱暴だ」と噂が広がり、企業イメージが損なわれます。車体に会社名が入ってなくても、ユニフォームや荷物などから会社名が露見することがあります。さらにSNS（コミュニティ形式のウェブサイト）などを通じて不名誉な情報が公開される可能性があります。法令を遵守し、ゆとりある丁寧な運転を行うことは、企業イメージのアップにつながります。



新入社員には、安全運転のポイントを教え、企業ドライバーとしての自覚と責任感をもつように指導しましょう。

今日のクイズの答え

②安全不確認（周囲の安全確認を怠った）（出典：警察庁「平成26年中の交通事故の発生状況」より）

ご用命・ご相談は・・・

トヨタレンタリース 浜松

リース事業部 本社 〒432-8045 浜松市中区西浅田2-6-43

リース事業部 掛川営業所 〒436-0022 掛川市上張278-3

リース事業部 静岡営業所 〒422-8515 静岡市駿河区国吉田2-3-1（静岡トヨタ自動車株式会社本社ビル4F）

TEL : 053-444-3911

TEL : 0537-24-8040

TEL : 054-264-7082



東京海上日動火災保険株式会社

企業営業開発部

〒100-8050 東京都千代田区丸の内 1-2-1

TEL 03-5288-6589 FAX 03-5288-6590

URL <http://www.tokiomarine-nichido.co.jp/>

担当営業課